

多様な製造業が根付くモノづくりの集積地である富山県。そこに温かな気流を送っていた世界経済は一時の勢いはなくなつたものの、地域経済は底堅い景況に支えられている。いまだ意気盛んな地元企業は新技術や新製品の開発、新規市場の開拓にまい進している。

新規市場へ果敢に挑む

—主力分野から発展

2017—100%の間に設定可能。

フォークリフトの接触回避のシステムは新製品向けの安全装置として実用化されているが、後付け用の簡易なシステムは珍しい。将来は端末からIoT(モノのインターネット)でクラウドにフォークリフトの位置情報を送り、接触しやすい危険な箇所を「見える化」することも見据えている。非破壊検査の事業が主力の同社だが、近年はIoTを活用した技術やサービスの開発に力を入れていける。今回の製品開発もその一環だ。

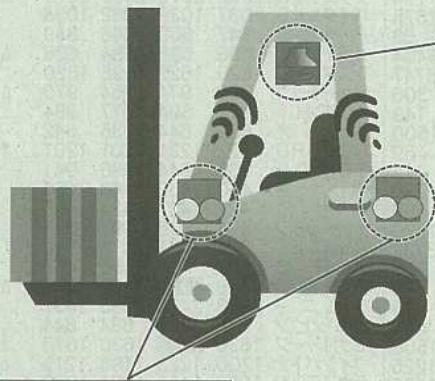
アイベック フォークリフトに 危険察知端末

非破壊検査によるインフラやプラントなどの点検業務を手がけるアイベック(富山市)は既存のフォークリフトに端末を搭載し、倉庫

の壁や保管物などに接触しそうな時に運転者に危険を知らせるシステムを開発している。

既存のフォークリフトの運転席上部への設置を想定している親機と、側面、後面、爪など接触を避けたい任意の場所に取り付ける子機を用意。子機は赤外線と超音波を用いて衝突を感知するセンサーを内蔵しており、障害物が近づくと親機に無線を飛ばし、親機がランプの点灯と警報によって運転者の注意を喚起する。

親機(警報発生部)



子機(距離検出部)

アイベックの新システムの概要

親機と子機はいずれも磁石でフォークリフトに貼り付けられ、利用者の状況に応じて設置場所を変えられる。接触を感知する距離は